

生誕一五〇年記念

板谷波山の陶芸

近代陶芸の巨匠、その麗しき作品と生涯

プレスリリース



2022 / 9 / 3 sat — 10 / 23 sun

ITAYA Hazan The 150th Anniversary of his Birth



展覧会概要

陶芸家 板谷波山（本名 嘉七、1872-1963）は、明治5年茨城県下館町（現・筑西市）に生まれ、昭和28年（1953）には陶芸家として初の文化勲章を受章し、昭和29年（1954）には日本画の横山大観とともに茨城県名誉県民の第一号となりました。

波山は、理想の作品づくりのためには一切の妥協を許さないという強い信念により、端正で格調高い作品を数多く手がけました。その一方で、故郷のまちと人々をこよなく愛し、共に信頼し、共感し合いながら、生きていくことを大切にされた人物でもありました。

令和4年（2022）3月3日、我が国の至宝である波山は、生誕150年を迎えました。この記念すべき年に、住友コレクションはじめ波山の選りすぐりの名作を一堂に集め展覧します。あわせて、波山が生まれ愛した故郷への思いや人となりを示す貴重な資料、そして試行錯誤の末に破却された陶片の数々を通して、「陶聖」と謳われる波山の様々な姿を紹介いたします。

波山の作品に表現された美と祈りの世界に癒され、そして、波山の優しさとユーモアにあふれた人生に触れるひと時をお楽しみください。



展示構成

序章：ようこそ、波山芸術の世界へ

第Ⅰ章 「波山」へのみちのり

Ⅰ－1 故郷・下館 一文人文化の街

Ⅰ－2 芸術家を志して 一東京美術学校と石川県工業学校

第Ⅱ章 ジャパニーズ・アール・ヌーヴォー

Ⅱ－1 陶芸革新 一アヴァンギャルド波山

Ⅱ－2 アール・ヌーヴォー 一のちの輝き

第Ⅲ章 至高の美を求めて

Ⅲ－1 葆光彩磁の輝き

Ⅲ－2 色彩の妙、陶技の極み

Ⅲ－3 侘びの味わい 一茶の湯のうつわ

序章：ようこそ、波山芸術の世界へ

板谷波山が東京美術学校時代に薫陶を受けた恩師・岡倉天心は、自身が創刊した雑誌『国華』創刊の辞の一節に、「夫レ美八國ノ精華ナリ」と記しています。その意は、美しいものを愛おしみ、それを育てていく精神にこそ、その国家の真髓があるということでしょう。その恩師の言葉を糧に、波山は全身全霊で陶芸の世界に対峙した人物でした。

波山の陶芸は、東洋の古陶磁がもつ鋭く洗練された造形を骨格として、そこに 19 世紀末の西欧のアー
ル・ヌーヴォースタイルという優雅で官能的な装飾性を加えた、いわば東西の工芸様式を見事に融合さ
せたところにあります。波山のうつわは時を越え鑑賞者を、ある時は魅惑の世界へ、あるいは静謐な世
界へと、それぞれに誘っていくものです。

幻の名作・展覧会初出品

《彩磁紫陽花模様花瓶》

大正 4 年（1915） 個人蔵

口径 15.5 高 29.8 胴径 35.0 底径 19.0



彦根更紗から楽園のイメージへ

《彩磁更紗花鳥文花瓶》

大正 8 年（1919）頃 泉屋博古館東京蔵

口径 17.6 高 39.0 胴径 43.7 底径 16.2



第1章 「波山」へのみちのり

明治22年（1889）、開校して間もない東京美術学校に入学、古典の学習、写生や模写、工芸技術など一連の研鑽を経て、工芸の街・金沢の石川県工業学校（県工）へ奉職した波山は、本格的に陶芸の世界に接近してゆきます。デザインや窯業材料の研究、ロクロ成形なども学び、近代日本の「美術」と「工業」の両分野の最高峰に連なる環境で鍛えられ、次世代陶芸界の牽引者としての歩を進めてゆきました。

1-1 故郷・下館 一文人文化の街

波山とまる夫妻初の御前制作作品

《彩磁菊花図額皿》

明治44年（1911） しもだて美術館蔵
径 30.0 高 5.0 底径 16.9



1-2 芸術家を志して 一東京美術学校と石川県工業学校

波山最初期の挑戦作品

《彩磁木蓮文花瓶》

明治36年（1903）頃 東京藝術大学蔵
口径 2.1 高 23.1 胴径 9.0

※東京会場では出品されません。



第II章 ジャパニーズ・アール・ヌーヴォー

19世紀後期、日本の陶磁器輸出は斜陽期に入っていきますが、この逆境の下、果敢に陶芸家として歩み始めた波山は、それまでの陶工の常識を破り、個人で本格的な高火度焼成の窯で磁器焼成に挑みます。この頃、波山が熱心に取り組んだのは西欧で流行したアール・ヌーヴォースタイルの意匠研究と、西欧渡来の釉や顔料の実用化でした。日本陶芸界のアヴァンギャルドとして、造形や意匠の革新者として、波山は次第に注目を集める存在となっていきます。しかしそこには薪窯による焼成のリスクと、貧困との果てしない戦いが待っていました。

II-1 陶芸革新 —アヴァンギャルド波山

波山芸術の片鱗が凝縮

葆光彩磁陶片 個人蔵



II-2 アール・ヌーヴォー —いのちの輝き

波山がめざしたアール・ヌーヴォー

《彩磁金魚文花瓶》
明治44年(1911)頃
筑西市(神林コレクション)蔵
口径10.3 高28.5 胴径19.8 底径13.3

リズムカルに舞う銀杏の葉

《彩磁銀杏散文花瓶》
明治40年代(c.1910) 個人蔵
口径8.5 高26.5 胴径26.7 底径15.8



第III章 至高の美を求めて

天性のカラリストといっても過言ではないほど、鋭敏な感性の持ち主であった波山。彼の色彩の世界は、釉の下に絵付けする「彩磁」(釉下彩)で表現されています。また、素地に彫刻刀で文様を彫刻する立体表現をめざし、新たなスタイルを誕生させました。波山はさらに「彩磁」から「葆光彩磁」へと表現の幅を広げていきます。「葆光彩」は今や波山の代名詞となり、日本の磁器表現に広がりや深み、そして幽遠な美の境地を開いたのです。

III-1 葆光彩磁の輝き

薄衣をまとうやきもの

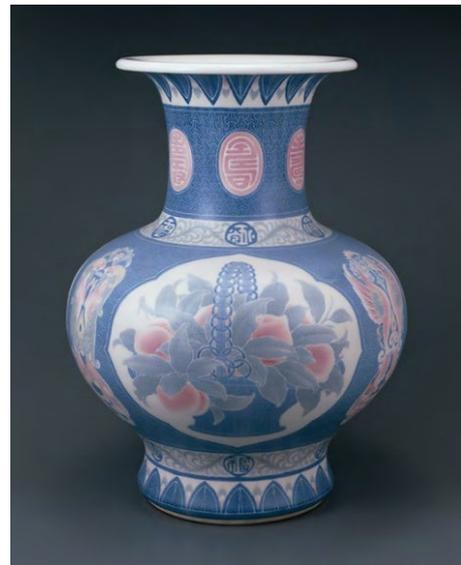
《葆光彩磁葵模様鉢》

大正前期 (early 1910s) 個人蔵
口径 25.5 高 11.1 底径 10.9



葆光彩磁の最高傑作

重要文化財《葆光彩磁珍果文花瓶》
大正6年(1917) 泉屋博古館東京蔵
口径 27.7 高 51.0 胴径 39.8 底径 21.0



III-2 色彩の妙、陶技の極み

大正後期における彩磁の傑作

《彩磁草花文花瓶》

大正後期 (1920s) 廣澤美術館蔵
口径 12.9 高 23.4 胴径 23.7 底径 10.8



III-3 侘びの味わい ー茶の湯のうつわ

波山は伝統主義者ではなく、美の革新者ーアバンギャルドーであったといえます。今という時代にあった茶陶を求め、様々な色彩のうつわを創造しました。昭和の時代に入り「葆光彩磁」が消えていく一方で、釉と土の織りなす景色に温かみを感じられる、新たな茶の湯のうつわが仕上がっていったのです。

彩磁香炉の最高傑作

《彩磁珍果文香炉 [火舎 北原千鹿]》
大正 14 年 (1925) 廣澤美術館蔵
口径 12.8 高 11.4 胴径 14.0 底径 7.9
火舎:径 11.1 高 5.5



艶麗な窯変の美しさ

《天目茶碗》
昭和 19 年 (1944)
筑西市 (神林コレクション) 蔵
口径 11.8 高 6.8 底径 3.6



開催概要

展覧会名	特別展「生誕 150 年記念 板谷波山の陶芸 ー近代陶芸の巨匠、その麗しき作品と生涯ー」 同時開催：青銅器館「中国青銅器の時代」
会 期	2022 年 9 月 3 日 (土) ~ 10 月 23 日 (日)
休 館 日	月曜日 (9/19、10/10 日は開館)、9/20 (火)、10/11 (火)
開館時間	10:00~17:00 (入館は 16:30 まで)
会 場	泉屋博古館 〒606-8431 京都市左京区鹿ヶ谷下宮ノ前町 24 Tel: 075-771-6411 URL https://www.sen-oku.or.jp/kyoto
入 館 料	一般 1,000 円 高大生 800 円 中学生以下無料 *本展覧会の入場料で青銅器館もご覧いただけます *20 名以上は団体割引 20%、障がい者手帳ご呈示の方は無料
主 催	公益財団法人泉屋博古館、日本経済新聞社、京都新聞
後 援	京都市、京都市教育委員会、京博連、公益社団法人京都市観光協会、 NHK 京都放送局

特別協力 筑西市、公益財団法人波山先生記念会、廣澤美術館
企画協力 株式会社キュレーターズ



巡回会場

2022年4月16日（土）～6月19日（日）	しもだて美術館	終了
※筑西市内にある板谷波山記念館、廣澤美術館で同時開催		
2022年6月25日（土）～7月24日（日）	石川県立美術館	
2022年9月3日（土）～10月23日（日）	泉屋博古館	
2022年11月3日（木・祝）～12月18日（日）	泉屋博古館東京	
2023年1月2日（月・祝）～2月26日（日）	茨城県陶芸美術館	



会期中のイベント

すべて入館料のみでご参加いただけます。

会場：当館講堂／いずれも14:00より／各定員：40名（予約制・先着順）

受付開始：8月12日（金）11:00より、ホームページまたは電話075-771-6411にて

■講演会

9月3日（土）「板谷波山の陶芸－麗しき作品と生涯」

講師：荒川正明 氏（本展監修者・学習院大学教授）

10月10日（月・祝）「陶芸家・波山誕生：金沢時代を語る」

ゲスト：荒川正明 氏、濱岸勝義氏（石川県立工業高等学校）

■学芸員のスライドトーク

9月23日（金・祝）「近代工芸もうひとつの源流－中国古代青銅器の造形と紋様－」

泉屋博古館学芸員 山本 堯

10月9日（日）「コレクター・住友春翠と板谷波山」

泉屋博古館東京学芸員 森下愛子

〔お問い合わせ先〕 泉屋博古館 広報担当：坂井さおり、学芸員：森下愛子

TEL：075-771-6411／FAX：075-771-6099 E-mail：pr-kyoto@sen-oku.or.jp

〒606-8431 京都市左京区鹿ヶ谷下宮ノ前町24

〔アクセス〕 京都市バス 32系統 宮ノ前町下車すぐ

同 5, 93, 203, 204系統 東天王町下車、東へ徒歩3分

地下鉄東西線「東山」または「蹴上」より徒歩15～20分

特別展
「生誕 150 年記念 板谷波山の陶芸 —近代陶芸の巨匠、その麗しき作品と生涯—」
会場：泉屋博古館 広報画像貸出申込書

本展覧会について広報媒体へ掲載、取材をいただく場合、以下の作品画像をデータでお貸出しいたします。申込書のご希望の図版に を記し、用紙を FAX またはメールにて返信のうえ、お問い合わせください。ご紹介いただく記事、番組内容については、情報確認のため校正の段階で事務局までお知らせください。お貸出しする画像データは本展覧会終了をもって使用期限とさせていただきます。作品の画像を 1 点以上ご掲載の上、本展をご紹介くださる媒体に対し、本展招待券を読者プレゼント用に提供いたします。申込書、所定の欄に招待券希望の旨を明記してください。

		
<input type="checkbox"/> 重要文化財 《葆光彩磁珍果文花瓶》 1917 (大正 6) 年 泉屋博古館東京蔵	<input type="checkbox"/> 《彩磁落葉文大花瓶》 1911 (明治 44) 年頃 廣澤美術館蔵	<input type="checkbox"/> 《彩磁金魚文花瓶》1911 (明治 44) 年頃 筑西市 (神林コレクション) 蔵
		
<input type="checkbox"/> 《彩磁更紗花鳥文花瓶》1919 (大正 8) 年頃 泉屋博古館東京蔵	<input type="checkbox"/> 《彩磁草花文花瓶》大正後期 廣澤美術館蔵	<input type="checkbox"/> 《彩磁菊花図額皿》1911 (明治 44) 年 しもだて美術館蔵
		
<input type="checkbox"/> 《葆光彩磁葵模様鉢》大正前期 個人蔵	<input type="checkbox"/> 《天目茶碗》1944 (昭和 19) 年 筑西市 (神林コレクション) 蔵	<input type="checkbox"/> 《彩磁珍果文香炉 (火舎 北原千鹿)》 1925 (大正 14) 年 廣澤美術館蔵

● 貴社基本情報

貴社名：
 媒体名：
 発行日／放送日：
 ご連絡先
 住所：
 電話・FAX：

ご担当者名：
 URL：

E-MAIL：

● 読者プレゼント用チケット希望：
 5 組 10 名様 10 組 20 名様

掲載に関するお問い合わせ先 泉屋博古館 (広報担当：坂井)
 606-8431 京都市左京区鹿ヶ谷下宮ノ前町 24 TEL：075-771-6411 FAX：075-771-6099 E-mail：pr-kyoto@sen-oku.or.jp